

Mich

Minoh City Hospital

2008.10 Vol.17



<http://www2.city.minoh.osaka.jp/HOSPITAL/home.html>

編集発行：箕面市立病院広報委員会 ☎072-728-2001(内線2718)

INDEX

- | | | | |
|----------------|-------------|------------------------------|-----------|
| 1. 超音波内視鏡の整備など | ————— P.1 | 6. Wave of Nursing (看護部ニュース) | ————— P.6 |
| 2. 地域医療室だより | ————— P.2 | 7. 分娩について | ————— P.7 |
| 3. 新任医師紹介 | ————— P.3 | 8. 消防からのお知らせ | ————— P.7 |
| 4. 部門紹介 | ————— P.3 | 9. 涼風コンサート | ————— P.8 |
| 5. 診療科からのメッセージ | ————— P.4~5 | 10. スキルアップ研修 | ————— P.8 |

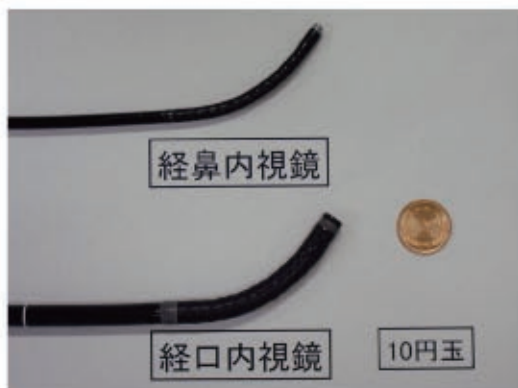
『早期発見・早期治療をめざして』 ~内視鏡センター~

皆さんはデジタルカメラ(デジカメ)をお使いですか? この数年間で非常に小型化し、高性能となりました。同様に消化器内視鏡(胃カメラ、大腸カメラなど)も、デジタル技術を駆使した様々な新製品が実用化され、大きな成果をあげています。当院でも昨年从去年から今年にかけて、何種類かの新しい内視鏡を導入しましたので、ご紹介します。

経鼻内視鏡 鼻から挿入する胃カメラです。今までの胃カメラと比較し、太さは約半分と非常に細くなっています(写真)。また、嘔吐反射(えずくこと)があまりないので、苦しくありません。ただし、精密検査には適さない場合もあります。

超音波内視鏡 普通の胃カメラと組み合わせて使います。妊婦さんの検診などに使う超音波の原理を利用して、胃粘膜の内側を調べます。腫瘍の性質や深さを診断し、治療方針を決めるのに役立ちます。

拡大内視鏡 ズーム(拡大観察)ができる内視鏡です。表面の細かい模様を観察し、腫瘍の性質や広がりを調べます。



当院の内視鏡センターでは、医師(内科、外科)、看護師、放射線技師などがチーム一体となって日々の検査、治療をおこなっています。内視鏡で腫瘍が見つかった場合は、早期のものであれば、内視鏡治療でお腹を切らずに治すことが可能です。以前は内視鏡では切除出来なかった2cm以上の腫瘍についても、早期であれば、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)という方法で治療できるようになりました。また、大腸ポリープの治療は診断時にその場で行いますので1回の外来検査で治療まで終了することができます。

早期発見・早期治療のためには、まず、検査を受けていただくことから始まります。腹部に症状がある場合は、かかりつけ医の先生にご相談の上、当院の内視鏡センターで一度検査を受けてみませんか。



後列左から：二木医師、荒谷看護師、赤川看護師、川上(補助業務員)

前列左から：亀山医長、由良副センター長、西原医長、山北医師

地域医療室だより



転院相談の増加 ～病院によって違う病床区分～

前号のMichでは、平成19年度において患者さま・ご家族からの相談の中で「転院、施設利用に関すること」が全体の60数%を占めていることを報告しましたが、急性期の治療を終えて、他の病院へ転院されるケースなどについて現状をもう少しお伝えします。

平成19年度における延入院患者数は、全診療科の合計で97,470人でした。内科、外科、整形外科、神経内科の4診療科で全体の4分の3を占めており、65歳以上のかたが占める割合は、内科76.2%、外科63.2%、整形外科80.2%、神経内科80%で、高齢なかたの割合が高くなっています。

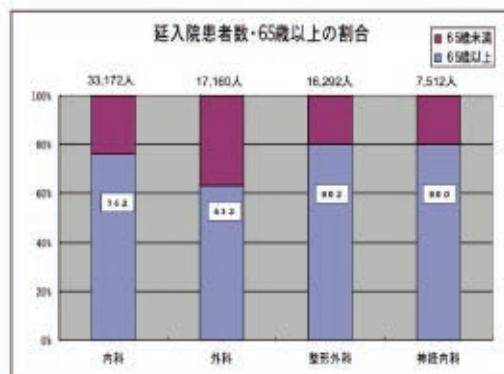
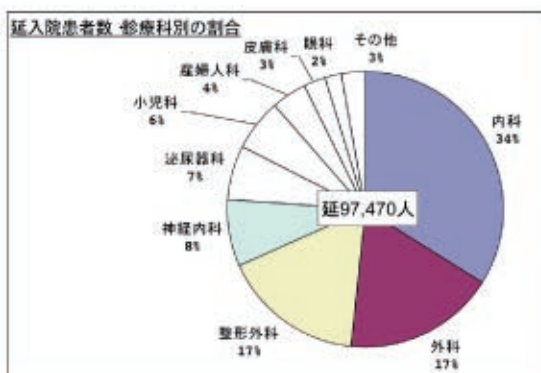
また、医療相談対象者の主な疾患は、悪性疾患22%、肺炎などの呼吸器疾患18%、大腿骨頸部骨折など整形外科系疾患が14%という割合でした。

このように高齢化、疾病構造の変化等を背景に、急性期の治療終了後、引き続き療養入院を希望される患者さまには、箕面市及び近隣市の病院への転院調整を行いません。状態としては、①全身状態は安定されているが合併症があり、医療的処置が必要な高齢患者さま、②悪性疾患があり疼痛コントロール等が目的の患者さまが多数を占めています。

これら患者さまの受け入れ先は、主に「療養病棟」または「緩和ケア病棟」となります。各病院との連携がますます重要となってくるので、円滑な連携を行なうために病院間のコミュニケーションを図り、患者さま、ご家族が安心できる療養環境の確保に努めてまいります。

今夏、箕面市立病院では、病院間の連携をより円滑に進めるため、横のつながりを重視したネットワークづくりを提唱し、併せて検討会議の開催を提案しました。

その第1回目の会合として、9月13日(土)に「病院ネットワーク(箕面)」を開催し、地域の19の病院の参加をいただきました。まずは顔の見える連携を行なうため、医師、看護師、相談窓口の担当者が集まり、連携の問題点や改善点などが話し合われました。まだまだ手探り状態ではありますが、各病院が意見を出し合って、この地域の病院連携の推進、安全で適切な医療の提供について検討を重ねる予定です。



※ 病院の病床区分は「一般病棟」、「療養病棟」、「結核病棟」、「精神病棟」をはじめ、「回復期リハビリテーション病棟」、「緩和ケア病棟」など個々に対象患者が区分されており、「一般病棟」では多様な疾患の急性期の治療が行なわれます。

箕面市立病院の病床区分は267床の「一般病棟」と50床の「回復期リハビリテーション病棟」となっています。



新任医師紹介



①所属科 ②卒年 ③自己紹介



辻尾 一郎

①精神科
(一般精神医学)
②平成7年卒

③平成20年8月より精神科に勤務となりました辻尾です。微力ながら外来(心のクリニック)を中心に、病棟では^②リエゾンや緩和ケアで少しでもお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。



鈴木 三保子

①眼科：網膜硝子体疾患、緑内障、白内障
②平成11年卒

③平成20年7月より、眼科に勤務しています。エビデンスに基づいた治療を行うことはもちろん、かつこれからの治療を^②エビデンスにつなげることができるよう、患者様の利益となる医療を目指して努力したいと思っています。よろしくお願いいたします。



金山 智子

①産婦人科
②平成17年卒

③平成20年6月より、産婦人科レジデントとして入職しました金山智子です。初期研修を2年間当院でさせていただいていましたので、顔見知りのスタッフもたくさんいて、懐かしい思いで働かだすことができました。
一般婦人科も診察しており、地域医療に貢献させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

部門紹介

診療情報管理室

当院で、診察を受けると、医師がコンピューターに向かって診療録(カルテ)を入力している姿を目にされることと思います。コンピューターの中には患者さまの病状、診察所見、治療経過や検査結果、今後の治療方針や説明の内容、看護師、薬剤師等の診療記録など、たくさんの情報が含まれています。また、コンピューターの中以外にも紹介状や同意書、レントゲンフィルムなど様々な情報が発生します。これらの情報すべてをまとめて診療情報と呼んでいます。

診療情報管理室は、これらの診療情報を安全かつ適切に管理・保管し、さらに活用するための統計処理を行う部門です。

診療情報は、チーム医療での各職種間の共有情報として、また地域のかかりつけ医への情報提供など、医療を行う上で大変重要なものです。診療情報管理室では、診療情報が正確に作成されているか、漏れがないか、記録が曖昧であったり、誤解されやすい内容がないかを点検し、時には修正を求め、正確で分かりやすい情報となるよう努めています。さらに個人情報保護の観点からも安全な管理を行うよう、個人情報保護に関するQ&Aの作成や研修に積極的に取り組んでいます。

また、日々の診療情報はそれを蓄積・分析することで、医療の質の向上、透明性の確保や医療職の育成に役立ちます。データを抽出し、様々な観点から分析することも診療情報管理室の重要な役割です。例えば、病名は国際疾病分類(ICD)に基づいたコード管理を行っています。ICDは世界保健機構(WHO)が定めた疾病や死因統計のための分類で、この分類を用いて診断群分類別包括評価(DPC)による入院医療費の算出を行うほか、疾病別患者数や平均在院日数などの算出を行っており、これらは、病院ホームページや年報でも公表しています。

このように、私たちは日常の診療の一つ一つを正確に記録・分析し、今後の医療にフィードバックできるように日々サポートしています。



※1: 患者さまの不安や苦悩を除くために、各科の医師と精神科の医師が協力して行う治療。

※2: 治療法を選択する際の根拠。

診療科からのメッセージ



整形外科

津田隆之



整形外科「変形性関節症について」

高齢になると、関節が変形して痛むことが多いことはよく知られています。では関節が変形するとはどういうことでしょうか。関節にはその表面に関節軟骨があり、その下の骨組織(軟骨下骨)に支えられています。関節軟骨は傷つきやすく、荷重による機械的ストレスや外傷、関節炎などにより、変性・摩耗が引き起こされます。関節軟骨が磨耗すると軟骨下骨に異常な荷重がかかるようになり、骨増殖が起こり関節変形となります。

変形性関節症は荷重が関係することから膝関節や股関節といった下肢関節に多く発症します。日本人では膝関節の発症が多く、変形性膝関節症の患者数は2,500万人と推定されています。これには正座やしゃがむことが多い和式の生活スタイルと、遺伝的に内反膝(O脚)が多いことが有病率の高さと関係している可能性が指摘されています。股関節については、股関節(亜)脱臼に関連して起こる二次性関節症が、日本人には非常に多く認められます。診断は、運動時の関節痛とレントゲン検査で比較的容易に可能ですが、初期の場合は荷重時のレントゲン撮影をしないと分からないことがあります。

治療については2008年のガイドラインから紹介します。まず非薬物

療法として、運動療法(有酸素運動、筋力強化)、生活様式の変更、歩行の調整、減量が推奨されます。杖などの歩行補助具や足底板、サポーターなどの装具療法も有効です。薬物療法としては消炎鎮痛剤の短期間内服や外用(シップ剤)が推奨されます。ヒアルロン酸関節内注射は推奨の強さが少し下がり、グルコサミン内服はさらに下がります。外科的治療は、人工関節と骨切り術が推奨とされています。

手術療法のタイミングとしては、レントゲンで関節軟骨が完全に摩耗した状態であり、さらに運動療法や薬物療法を行っても痛みの取れない状態が続く時と考えています。人工関節の手術成績は非常に向上しましたが、1ヶ月程度の術後リハビリが必要であり最終的な手段といえます。非手術療法の効果が得られなくなった時の治療法と思います。まずは運動療法や薬物治療をしっかりと行ってください。





形成外科

桑江克樹



がんけんかすい

形成外科「眼瞼下垂」

皆さんは眼瞼下垂という病気をご存じですか？最近ではテレビなどで取り上げられることもあり、ご存じの方も多いと思います。

これは、まぶたが開きにくくなる病気で、生まれつきのもので、コンタクトレンズの長期使用に伴うもの、老化によるものなどいろいろな種類があります。まぶたをあける筋肉（眼瞼挙筋）の力が弱くなる、筋肉の附着部がはずれ筋力がまぶたに伝わりにくくなる、まぶたの皮膚がたるんでまぶたを開けるのに余分な力があるなどが主な原因です。

この病気は、まぶたが開けにくくなるため、無意識のうちに眉毛をつり上げてまぶたを開けるようになります。そのため、おでこのしわが深くなり、眉毛の位置があがりハの字眉になるなど、ふけ顔の原因となります。さらに見た目の問題だけではなく、常に顔面の筋肉に力を入れているため、肩こりや頭痛、不眠、めまい、自律神経障害など様々な症状が出てきます。

治療法は手術となります。目のことなので眼科を受診される方が多いのですが、形成外科が専門に行っています。眼瞼下垂の原因に合わせて手術法を選択します。余分な皮膚を切除する方法、眼瞼挙筋をつけ直す方法、ゆるんだ眼瞼挙筋を縫い縮め

る方法、筋膜を移植する方法などがあります。手術時間は片側30分～1時間程度、局所麻酔、通院手術で行っています。両側の場合、術後にガーゼを当てると目が見えにくくなり、足元が危ないため、送り迎えの通院が困難な方は入院手術でも対応しています。術後3日目頃から軽い洗顔は可能で抜糸は術後5日目頃です。術後はしばらくまぶたが腫れ目立ちますが、手術後にまぶたをよく冷やし、安静にすると腫れは少なくて済みます。術後3ヶ月目頃に傷跡は二重まぶたと目尻のしわに隠れ目立ちにくくなります。手術には健康保険が適応されます。術式によって異なりますが、手術費用は3割負担の方で片側2～3万円位（投薬、入院費別）です。

高齢化とともに老人性の眼瞼下垂（まぶたの皮膚がたるんで目が開けにくくなる状態）の方が増えています。最近、まぶたが重くなった、またはすぐに肩がこるようになったと感じている方は一度、形成外科を訪ねてください。



Wave of Nursing (看護部ニュース)

認定看護師の紹介 その1

看護部では、6名(皮膚・排泄ケア、がん化学療法、救急、感染管理)の認定看護師がいます。6名の認定看護師は、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて看護の質を上げるために活動しています。今回から随時、6名の認定看護師の活動をお知らせしていきます。第一回目は、皮膚・排泄ケア認定看護師の活動を紹介します。

(看護部長 山倉弘子)

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷(Wound)人工肛門や人工膀胱等(Ostomy)失禁(Continence)領域で専門的な看護ケアを提供する看護師です。

人工肛門や人工膀胱をストーマと言います。ストーマを造った患者さまは、従来の排泄経路が変わるため、新たな排泄管理が必要になります。

排泄は人間の基本的な欲求の一つであり、適切に管理できなければ生活に支障をきたすばかりか、人間の尊厳も損なわれます。そのため、手術前から患者さまに関わり、本人の生活様式に合った適切な排泄管理ができるように、ケア方法の指導やストーマ装具の選択を行います。退院後も、入院前の生活に早く復帰できるように、外来にある「ストーマ相談室」で、日常生

活での悩みやトラブルなどの相談を受けています。新たな排泄経路をもって家庭や職場に復帰し、旅行やスポーツを始めるには大変勇気のいることです。そんな時、患者さまから「趣味のゴルフを始めた」「旅行に行ってきたよ」などの報告を聞くと、とてもうれしいです。

創傷分野では、皮膚科医師と理学療法士や作業療法士、栄養士とチームを組み、毎週褥瘡(じょくそう)回診を行っています。回診では、褥瘡のある患者さまの治療やケア以外に、褥瘡になる危険性が高い患者さまの予防も行います。褥瘡は寝たきりの状態だけでなく、座ったままの姿勢や生活習慣動作の影響で発生するため、治癒までに長い経過をたどることもあり、専門的な知識を持ったさまざまな職種の連携が大切です。そのため、チーム内で職種の壁を越えて治療やケアの方法を検討し、調整する役も担っています。

「ストーマケア」「褥瘡・褥瘡予防ケア」は、患者さまの生活の中に取り入れ、継続していかなければならないケアです。患者さまを中心に、患者さまを取り巻くご家族や医師、看護師と対話を重ねて生活状況を知り、現実的で実践可能なケアを提供することを認定看護師として心がけています。また、患者さまへの直接的なケアだけでなく、看護師からのケア相談や、ストーマや褥瘡ケアの指導・研修を通して、院内の看護の質の向上のために活動しています。

(皮膚・排泄ケア認定看護師 石上佐恵)



涼風(すずかぜ)コンサート



7月18日(金)涼風(すずかぜ)コンサートを行いました。

毎年、当院では、開院の日(7月7日)を記念して、「七夕コンサート」を開催しておりますが、今年は、少し時期が遅れましたので、少しでも涼やかな風を、患者さまをはじめご参加いただきました皆様に、心地よい音楽をお届けできるように「涼風コンサート」としました。約70名の参加があり、みのおアーティストクラブから加藤靖子さん(ピアノ)、吉田真理子さん(フルート)による、クラシック音楽や唱歌など、みなさんの親しみのある曲の演奏や参加者の方々が楽しく歌ったり、音楽クイズもあり、楽しく涼しいひと時を過ごしました。

看護師スキルアップ研修

箕面市立病院では、看護師資格をお持ちの方を対象に、スキルアップのための公開研修を開催しておりますので、在職の有無は問いません。ぜひ一緒に学びましょう。お待ちしております。(研修には市立病院職員も参加します)

対象: 市内及び近隣市に在住の看護師免許をお持ちの方
(在職の有無は問いません)

申込み: 住所、氏名、年齢、連絡先、研修コース名をお書きのうえ、ファックス又はメールにてお申込みください。

FAX: 072-728-8232 e-mail: hospital@maple.city.minoh.lg.jp

場所: 箕面市立病院

★一時保育あります!(定員5名)★
ご希望の方は、申込み時に、子どもの人数と年齢をお知らせください(定員-5名、対象年齢-生後56日目以降~就学前)

【研修コース】

コース名	日時	内容	講師	申込締切り
3 糖尿病看護③	10月30日(木) 17:15~18:15	糖尿病の正しい知識を理解する (皮膚科編) - 「足病変」について -	皮膚科 松本医師	10月23日(木)
4 姿勢に対する動的援助	10月29日(水) 17:15~18:15	ポジショニングや体位変換、ケア時などに安全・安楽な援助を行う	リハビリテーション部	10月22日(水)
5 緩和ケア	11月7日(金) 17:00~18:30	緩和ケアにおける精神症状へのアセスメントケア	(財)甲南病院 精神看護専門 看護師 山田淳子	10月31日(金)
6 感染看護	11月19日(水) 17:15~18:45	感染管理の基礎知識とその実際を学ぶ	ICT	11月12日(水)
7 褥瘡	11月21日(金) 17:15~18:30	DESIGN評価と褥瘡局所ケア方法	皮膚科 松本医師 認定看護師 石上佐恵	11月14日(金)
8 呼吸管理 (病理学療法)	11月20日(木) 17:15~18:30	体位・排痰法(スクイーミング)の理論を理解して看護実践に活かす	ICU看護師	11月13日(木)
9 地域看護	1月23日(金) 17:15~18:30	在宅療養に向けて保険・医療・福祉機関の連携の中で看護の役割を考える	地域医療室	1月16日(金)
10 認知症看護	1月16日(金) 17:15~18:30	認知症患者を看護するうえで必要な基礎知識を理解する	精神科 谷口医師	1月9日(金)

※4、8のみ参加人数制限あり(10名まで)

問合せ: 市立病院事務局経営企画課 TEL: 072-728-2034

主催: 箕面市立病院



編集後記

世界的に政治、金融市場、原油価格、気象などあらゆるところで、大きく揺れ動いていますが、揺れていないのは日本の厳しい医療状況。

よい医療状況になるのはいつになるのでしょうか? そんな中でも当院は揺らぐことのない良質な医療の提供を続けたいと思っています。